

このシーズン最終の雪山登山 立山・奥大日

山行日：2024年 4月19日(金)04:40発～4月21日(日)23:30北 着解散

メンバー 班名シリウス班・リーダー：Kさん

SL：Tさん 会計・車：Yさん

コース（行程）

- ・4月19日(金)04:40北 集合出発>>立山駅11:30 ごろ早い目に到着>>立山駅13:20
ケーブルカー発>>室堂着15:00～雷鳥沢着16:10 テント泊
- ・4月20日(土)雷鳥沢発 04:50 大走り経由～稜線分岐07:30～立山雄山10:10 中休憩
～一ノ越山荘10:50 ～雷鳥沢着12:00 テント泊近くの小屋で温泉入浴
- ・4月21日(日)雷鳥沢発 04:20～奥大日岳 07:50 2605m ～雷鳥沢着10:30 テント撤
収発～ 室堂着13:30～ 立山駅着15:30 >>温泉に寄る>>22:30 北セン到着

本文

←本文も12ポイント

今回の立山山行は、Kさん、Yさん、Tのメンバーでの今シーズン3回目の雪山登山でした。初回は八経ヶ岳の狼平へのテント泊山行、2回目は北アルプスの西穂高岳独標（現地まで行くも新穂高ロープウェイが強風で運航停止となっており登山を断念。ロープウェイ乗り場近くにて雪山テント泊訓練のみ実施）、3回目が今回の立山山行。いずれもテントはKさん個人所有の4人用テントを使わせていただきました。

早速ですが、今回の立山山行の報告に移ります。初日の立山駅の天候は晴れ。気温も高く、汗ばむくらいの陽気で、称名川の畔には家族連れが散歩に来ていました。標高475mの立山駅から同977mの美女平駅までケーブルカーで上がり、そこから更にバスで標高2,450mの室堂まで一気に標高を稼ぎます。標高差約2,000mですので、立山駅と室堂の気温差は約12℃。室堂でバスを降りると思いのほか寒くて驚きました。

さっそくアイゼンを装着し、雷鳥沢のテント場を目指して出発。歩き初めて30分程のところ、何と、まだ白い冬毛の雷鳥が出迎えてくれました（写真1）。雷鳥に元気をもらい、進むこと約40分。雷鳥沢に無事到着。速やかにテント設営に取り掛かりました。スコップで雪をブロック状に切り出して積み上げ、その後、テントを無事に設営。今期3回目の設営なので、Kさんお手製の雪pegでのテント固定作業などもだいぶ慣れてきました（写真2）。室堂では曇りだった天気も回復し、翌日登る雄山の頂上も綺麗に見ることができました（写真3）。そして夜は大宴会！Kさんお手製のキムチ鍋をご馳走になりました。ほろ酔いでテントを出て空を見上げれば満天の星空。しばしの天体観測ののち、幸せな気分のまま眠りに就きました。ただ、夜半は結構な強風が吹き、何度か風音で目を覚ました。でもご安心を。テントはKさんご指導のもと、しっかり設営していたので全く問題なし。

2日目は富士ノ折立、大汝山を通過して雄山を目指し、一ノ越を経由して雷鳥沢に戻る周回コース（距離は約6km、累積標高はのぼり・くだり約800mずつ）。AM5時前にテント場を出発。目の前に見える稜線（写真4）を目指して登り始めます。これが結構な急登で、息が上がります。ようやく稜線を登り切った分岐に7:30頃到着。各自、水分・行動食を補給して再開。ところが、その先も険しい岩稜に何度も行く手を阻まれます（写真5）。危

険が大きいトラバースをなるべく避けつつ、細心の注意を払って岩場を越えて進みます(写真6)。途中、雪庇がひび割れているところも多く、慎重にルートを選ぶなど、貴重な経験をさせていただきました(写真7)。最後の岩稜を何とか左に回り込んで越えると、前方に、雄山神社が見えました(写真8)。そして10:10に雄山神社に到着(写真9・10)。ようやく絶景を眺めながらの昼食にありつきました。休憩後、一ノ越山荘を目指して下山を開始。南斜面のためか雪がかなり緩んで溶けており、岩の露出部分が目立ちました。岩にアイゼンを引っかけないよう気を付けながら下ります。ひっきりなしに登ってくる登山客とのすれ違いにも注意が必要。でも順調に行程をこなし、雷鳥沢に12:00頃到着。強い日差しの中、テント場近くの小屋で温泉のご褒美。シャンプーと石鹸もあり生き返りました。小屋で生ビールを楽しんだ後、テントに戻り、早めの夕食に取り掛かります。2日目の料理は2種類の Pasta と ビビンバ 丼。雄山登頂の達成感とご馳走でお酒も進みます。風はなかったものの天候が下り坂で曇天。星を見ることはできず。雨が降らないことを祈って就寝。

3日目、何とか大雨にはなっておらず一安心。この日は奥大日岳を目指し、登頂後は同じルートを下るピストン山行ですが、何度も登り返しのある精神的に疲れるコースです(距離は約7km、累積標高はのぼり・くだり約650mずつ)。雷鳥沢を4:20に出発し、室堂乗越を6:00すぎに通過。前日に比べ雪が緩んでいて踏み抜くことが多く、かなりの労力を払いながら、かつ、張り出した巨大な雪庇に気を付けながら稜線を進みます(写真11)。何度かの登り返しをクリアし、ようやく7:50に奥大日岳山頂に到着。山頂からは剣岳の雄姿を拝むことができました。山頂は少し雲に隠れていましたが大満足でした(写真12)。天気が下り坂だったため休憩もそこそこに下山を開始。途中のなだらかな斜面で滑落防止訓練を行いつつ、頑張っ て 進み、10:20に雷鳥沢に帰着。パラパラと降り始めた雨を気にしながら急いでテントを撤収し、室堂を目指して出発。思いのほか室堂までの登り勾配がきつく、疲れのせいか、道程が長く感じられました。途中で何度か出会うことができた愛らしい雷鳥の姿に励まされながら何とか13:30に室堂に到着。日曜日だったせいか、到着日よりインバウンドのお客さんが多く驚きました。登山の恰好が珍しいのか、色々な国(タイ、台湾、など)の観光客に声を掛けられ、そのたびに写真を見せながら身振り手振りでテント泊と登山を必死に説明しました。みな一様に、撮影した写真の素晴らしい景色に驚き、感動してくれました。というのも、この日は天候が悪く視界がきかず、立山の素晴らしい景色を見られない状況でした(写真13)。

立山駅には15:30に到着し、途中、温泉で疲れを癒して帰路につきました。

今回のハイライトは、何とんでも2日目の雄山に向かう途中の岩稜部分でした、ピックとアイゼンの爪を雪の壁に突き刺しながらの直登やトラバース通過など、技量が試される危険な箇所を通過する度、Kさんにご指導いただきました。無事に山行を終えられたのも、鍛冶さんのお陰と、この場を借りて深く御礼申し上げます。また、お仕事が忙しい中、ロープウェイのキャンセル待ち予約など、様々な準備に奔走くださいましたYさんにも心より御礼申し上げます。Yさんがいなければ今回の山行は実現できませんでした。最後になりますが、来年、再び西穂高岳などへの山行に紀峰の仲間と一緒に行けるのを楽しみにしております！



(写真 2)



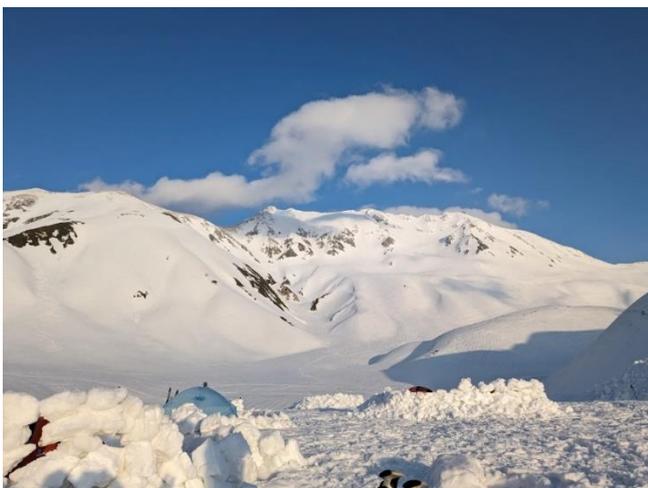
(写真 5)



(写真 3)



(写真 6)



(写真 4)



(写真 7)



(写真 8)



(写真 9)



(写真 1 0)



(写真 1 1)



(写真 1 2)



(写真 1 3)

